

1 主 題 「言語の受容と表出に関すること」 6 コミュニケーション

2 主題設定の理由

- 本グループの生徒は、コミュニケーションに苦手さのある〇名で構成されている。生徒は、人とかかわることが好きなため、学年を越えて積極的にかかわろうとし、周囲の級友の言動をよくまねたり、指差しや身振りなどで伝えたりする。さらに、生徒は体を動かすことが大好きで、興味があることに関しては、集中力を発揮し、意欲的に活動することができる。しかし、本グループの生徒は自分が伝えたいことが相手にうまく伝わらないため、伝えることをためらったり、支援を求めたりすることができない場合がある。また、次の活動内容が分からず静止してしまったり、相手の話を最後まで聞かずに発言したり、思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現をしてしまったりするなどの課題がある。そこで、個の実態や本人や保護者のニーズを把握すると共に、個別の教育支援計画と自立活動の区分「2心理的な安定」「5人間関係の形成」「6コミュニケーション」のねらいを関連させた指導が必要であると考えた。さらに、生徒の将来の社会参加を見据えた際、本人が困難さを訴えることが前提となる合理的配慮の要求と自立活動は密接に関わっており、得手・不得手を知るという自己認識の過程を経ながら、課題解決の手がかりを見つけ、粘り強く挑戦し続けていく力の育成が必要と考え、本主題を選定した。

ここで本主題に関する生徒の実態および自立活動との関連を〈表1〉に示す。

3 単 元 「みんなで協力して体を動かそう」

4 指導観

- 本単元は、適切な言葉を使用し、周囲の状況や他者に配慮した言葉かけを身に付けることをねらいとしている。主な学習内容は、言葉かけの種類や重要性、適切な言葉かけによる心情の変化などである。他者と協力して体づくり運動を行うためには、互いに適切なコミュニケーションをとることが求められる。さらに、「2心理的な安定」「5人間関係の形成」「6コミュニケーション」の目標は、他者とのかかわりの中で育まれる力であり、体づくり運動を通して、成功体験を積み重ねることができ、言語を受容し表出する力を育成することができる。このように、他者と体づくり運動を行うことは、気持ちを調整する力を高めたり、他者と会話するときのルールやマナーの獲得につながったり、必然的に他者との関係を意識する必要があるため、本単元を通してコミュニケーションの基礎的能力を身に付けることができると考える。また、他者と自己との関係を認識しながら、自己の役割を調整することは、生活の様々な場面でも必要であり、社会の中で生活していくためにも、大変重要なことである。以上のことから、円滑な対人関係の構築のための規則や条件を認識し、他者と共にやり遂げようとする意欲をもち、様々な場面で互いを認め合えるようになることは生活を豊かにするうえでも大変意義深いと考え、本単元を設定した。
- 本単元の指導にあたっては、級友と体づくり運動を通して「2心理的な安定」「5人間関係の形成」「6コミュニケーション」に関する一人一人の課題を改善・克服するために挑戦し続ける姿をめざす。そのためにまず、級友と協力して活動するために必要なことを探らせる。ここでは自己の姿に気付くことができるように、活動中の様子を視聴させ、言葉かけの種類を挙げて分類する場面を設ける。そして、自己の課題を自覚し、目標を意識し続けることができるようにチャレンジノートに記入する内容を問う。次に、体づくり運動を通して、級友と協力する良さを実感させる。ここでは、適切な言葉かけができるように、ロールプレイを行う場面を設ける。また、自己の目標を意識し続けることができるように、言葉かけの分類表を参考にし、目標をチャレンジノートに記入する場面を設ける。さらに、級友と協力する方途を探らせる。ここでは、様々な種類の言葉かけができるように、到達度に対する評価を記録する。最後に、級友と協力する方途を確認させる。ここでは、身に付けてきたことを授業や生活の中でいかせるように、チャレンジノートの成功体験の記述や取り組み続けてきた記録を確認し、具体的な生活の場面を挙げて活用できるようにする。その際、成功したことはチャレンジノートに記録し続け、定着を図る。

ここで本単元に関する生徒の実態および自立活動との関連を〈表2〉に示す。

〈表 1〉 本主題における生徒の実態とめざす姿（長期目標）

	生徒 A	生徒 B	生徒 C
生徒の実態			
中心課題			
長期目標			

〈表 2〉 本単元における生徒のめざす姿（短期目標）と主な指導区分

	生徒 A	生徒 B	生徒 C
短期目標			
主な指導区分			
主な手だて			

5 単元計画（10時間）

	次	配時	学習活動・内容	手だて（○）研究に関する手だて（◎）
きづく	一	2	1 級友と協力して活動するために必要なことを探る。 ・言葉かけの種類 ・自己の課題認識	○ 自らの姿に気付くことができるように、活動中の様子を視聴させ、適切な言葉かけの種類を挙げて、分類する場面を設ける。 ○ 生徒が意欲的に様々な種類の言葉かけができるように、言葉かけの種類にレベルを設けた表を作成する。 ◎ 自己の課題を自覚し、目標を意識し続けることができるように、チャレンジノートに記入する内容を問う。 【生徒の意識付け】
	やってみる	二	7	2 体づくり運動を通して、級友と協力する良さを実感する。 (1) 級友と協力したり、活動を円滑に行ったりする方法を練習する。 ・適切な言葉かけの種類 ・言葉かけの仕方
三		本時 3/7	(2) 体づくり運動を通して、級友と協力する方途を探る。 ・言葉かけの内容 ・言葉かけの重要性 ・言葉かけのタイミング ・心情分析の視点	○ 級友と協力する良さを実感できるように、体づくり運動の際、協力が必要な活動を行うことを通して、適切な言葉かけができる場面を設ける。 ◎ 様々な種類の言葉かけができるように、到達度に対する評価を行い、内容を記録する。 【成功体験の積み重ね】 ◎ うまくいかなくても学習課題に挑戦し続けることができるように、課題解決への姿勢や言葉かけの内容を評価する場面を設ける。 【生徒の意識づけ】 ◎ チャレンジノートに記載している目標と教師のコメントを確認する機会を設ける。 【成功体験の積み重ね】 ○ 活動の成果や課題を確認するために活動の様子を撮影し、振り返りの際に活用する。
つかむ	三	1	3 体づくり運動を通して、級友と協力する方途を確認する。 ・課題解決への方途 ・活動全体を振り返る視点	◎ これまでの学習で身に付けてきたことを実感することができるように、チャレンジノートを振り返る場面を設ける。 【学びの軌跡の確認】 ○ 身に付いたことを他の活動にいかす視点をもつことができるように、具体的にいくつかの行事名や生活場面を挙げて、活用できる場面や内容を問う。

(1) 主眼と評価

		生徒A	生徒B	生徒C
主 眼		級友と運動をすることを通して、級友に適切な言葉かけを行う大切さが分かる。	級友と運動をすることを通して、言葉かけのタイミングが分かる。	級友と運動をすることを通して、相手の状況に応じた言葉かけの大切さが分かる。
評 価	段階2	全体に向けて適切な表現で励ます言葉かけができたか。 ※(レベル4)	複数の種類を用いて級友を励ます言葉かけができたか。 ※(レベル3)	相手の状況に適した言葉かけができたか。 ※(レベル5)
	段階1	適切な表現で級友を励ます言葉かけができたか。 ※(レベル3)	級友とタイミングを合わせる言葉かけができたか。 ※(レベル2)	相手の立場に応じて適切な表現で励ます言葉かけができたか。 ※(レベル4)

※評価欄の括弧は、別紙資料<表3>と対応。

(2) 準 備

- ①チャレンジノート ②言葉かけ分類表 ③ソフトバレーボール ④ホワイトボード ⑤フラフープ

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	手だて (○) 研究に関する手だて (◎)	形態	配時
1 前時の学習内容を振り返りめあてを確認する。 ・見通しをもつよさ めあて みんなで協力しながら運動をしよう。	① ②	○ 他者と協力する必要があることを認識させるために「全員で課題を成功させるために必要なことは何ですか。」と問う。 ◎ 級友と協力するためには、適切な言葉かけをすることが必要であることを想起させるために、チャレンジノートに記入している目標を確認する場面を設ける。 【生徒の意識付け】	一斉	10
2 準備体操(肩たたき) ・相手の状況に応じた言葉かけの種類 ・相手意識の大切さ		○ 活動中に適した言葉かけができるように、肩たたきをする際の注意点や相手とのやり取りの内容を確認する場面を設ける。 ○ 適切な言葉かけをしていることに気付くことができるように、適切な言葉かけをした生徒を即時に称賛する。	ペア ↓ 一斉	10
3 級友と協力する方途を探る。 (1) 一列でボールを素早く運ぶ運動を行う。 ・言葉かけの種類 ・言葉かけの重要性 (2) 輪になってフラフープをくぐる運動を行う。 ・言葉かけの内容 ・言葉かけのタイミング	③ ④ ⑤	○ 安心して活動に取り組むことができるように、実際にを行う動きを教師が見せる場面を設け「質問はありますか」と問う。 ○ 適切な言葉かけを続けることができるように、言われたときの気持ちや言葉かけの際に、言葉かけ分類表を確認する場面を設ける。 【生徒A】 ○ 言葉かけの種類を増やすことができるように、使用した言葉かけの種類をホワイトボードで確認させ、言葉かけ分類表を見て、活動中に使用したい言葉进行問う場面を設ける。 【生徒B】 ○ 相手の状況に応じた言葉かけができるように、使用した言葉かけの内容を振り返る場面を設ける。 【生徒C】	一斉	20
4 本時の活動を振り返り、まとめを行う。 ・振り返りの視点	①	◎ 本時のめあてとチャレンジノートとのつながりを振り返ることができるように一人ずつ確認する場面を設け、言葉かけ分類表と到達度、次時への意欲を確認しチャレンジノートに記録する。 【成功体験の積み重ね】	個 ↓ 一斉	10